川　野　健　治

（総合心理学部）

「課題×コミュニティ」×心理学

疾病や犯罪などの予防、災害時の互助・共助、環境問題、ケアなど、解決のためには個人単位ではなく、コミュニティで考える方が効果的な課題が増えています。しかし、多数のステークホルダーが関与する状況では、「最も小さい声」に耳を傾け適切に判断した上で、対策をデザインしていく視点も大切です。心理学はここに関わることができる学問です。

私たちのグループでは、自殺予防のためのプログラム GRIP を開発しています。これに含まれるカードゲームやシナリオ作りなどを通して、自殺という重い課題を皆で考える仕組みを提案しています。また、地域で多様な人が出会う場としてコミュニティカフェを運営してきましたが、新たな挑戦を始めます。Ibaraki_connected_lab から地域通貨を発行し、茨木市で市民と大学生がつながる機会を創出する社会実験です。

人は他者と出会い、課題について工夫をする中で、予想を超える変化のための学び「拡張的学習」へと展開することができます。これを目指して研究に取り組んでいます。

所 属

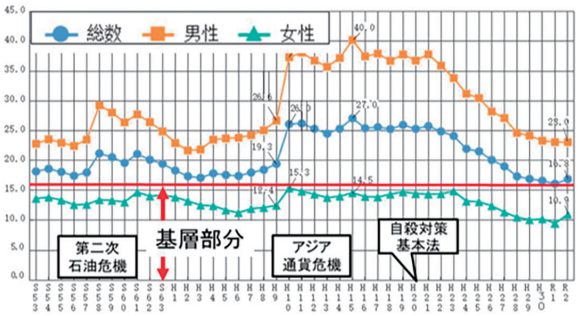
総合心理学部

研究テーマ

- 自殺の基層部分についての文化心理学的検討
- デジタル地域通貨によるネットワーク形成
- 地域固有の資源とメンタルヘルス

キーワード

自殺予防、メンタルヘルス、文化、地域通貨、コミュニティ

自殺の基層部分と文化の影響

戦後の日本の自殺率は、一定の水準を下回ることがありませんでした。一方、自殺についての日本固有の文化状況が、自殺死亡率の高さに影響しているとの指摘があります。ここから、自殺の基層部分の存在と文化の影響を仮定できます。そこで日本固有の自殺の概念化と現在の自殺対策への影響を検討する研究に取り組んでいます。たとえば、歴史的な文化産物をとりあげ、日本の固有文化における自殺概念を抽出する「再現構造分析」を用いて、歴史的な文学作品にみられる自殺を美化する傾向に着目し、自殺予防対策に抑制的な効果をもつことを指摘しました。